学校だより

第217号

（2024年3月号）

函館工業高等専門学校

学校だより 第217号
～2024年3月号～

【目 次】

卒業・修了する皆さんへ…… p. 1
卒業生に贈る言葉 …… p. 2
担任教員・卒業生から…… p. 3
修了生に贈る言葉 …… p. 8
修了生から …… p. 9
留学生から…… p. 11
学校行事・イベントについて…… p. 14
各種大会・コンテストでの活動…… p. 18
国際交流報告…… p. 25
学生寮から…… p. 29
進路支援室から…… p. 32
退職される先生方から一言 …… p. 33
函館高専地域連携協力会から…… p. 35

独立行政法人国立高等専門学校機構
函 館 工 業 高 等 専 門 学 校

National Institute of Technology
(KOSEN)、Hakodate College

卒業・修了する皆さんへ

『卒業・修了する皆さんへ』

函館工業高等専門学校長　阿部　恵

本科卒業生ならびに専攻科修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。卒業生・修了生の皆さんは函館高専での課程を修了され、この戸倉の丘を旅立ちます。未来へ向かって新たな一歩を踏み出す皆さんを心から祝福します。

皆さんが函館高専で過ごした本科5年間の約3年間がコロナ禍でした。全世界を巻き込んだ体験したことのない危機の中で、それまでの常識が覆され、社会に様々な変化がもたされました。その厳しい状況の中でも、皆さんは前を向いて乗り越えてきました。世界規模で対策を打ち出す必要のある課題は、感染症問題の他に、気候変動、自然災害、環境汚染、資源・エネルギーの枯渇の問題、食糧不足、国際紛争など、たくさんあります。こうした課題解決に向けて、本校で創造性のある実践的技術者教育を受けた皆さんが多岐にわたり活躍できる場が多くあります。

卒業生・修了生の皆さんの輝かしい門出に際し、グローバル社会で生きていく今後の人生で大切にしてほしいことを二つお話します。一つ目は、生涯において学び続けるということです。皆さんはこれから急速な技術進歩や経済の変動等の変化に伴う、予測が厳しい社会に対応していかなければなりません。函館高専で学んだ専門知識と実践力を基盤に、卒業後は自ら積極的に学びを継続し、専門性を高める努力を続けてください。人間の能力はいつまでも同じままではありません。自分で学習すればした分だけ、変わることができます。そして、学んだ専門知識や技術力を活かして社会に貢献できることに誇りをもって仕事をしてほしいと思います。

二つ目は、専門知識や技術力の向上だけではなく、豊かな人間性を身につけ、国際的な視野に立って思考・活動できる能力を伸ばしてほしいということです。人間は、様々なかかわりや体験を通して「人間」として成長していきます。これから、社会の急激な変化が進む中、ますます相互依存する世界で皆さんは生きていきます。一人ひとりの行動が世界の人々に影響を与えます。心豊かに生きる社会を築くために、人間性をさらに磨く努力を続けてください。そのためには、自分の価値観や偏見に心を開き、多様な価値観を持った人々と積極的にコミュニケーションをとり、さまざまな活動や体験をしてほしいと思います。

これからの未来は皆さんによって大きく変えられるということを自覚し、本校の校訓「汝が夢を持て、大志を抱け、力強かれ」を胸に刻み、社会で活躍してほしいと願っています。皆さんの能力の可能性は無限大です。何度失敗しても諦めずに挑戦と努力を続けてください。これからの産業界、そしてグローバル社会を支えていくのは皆さんです。母校である函館高専は、いつも皆さんを応援しています。

卒業生に贈る言葉

『卒業生・修了生へ贈る言葉』

教務主事　柳谷 俊一

本科卒業生・専攻科修了生の皆様、この度はご卒業・修了おめでとうございます。振り返ってみると、高専での生活はあっという間だったのではないでしょうか。本校での学びで得た知識や経験は、今後の人生での貴重な財産となることでしょう。また、その学びを通じては「問題解決能力」や「学び続ける力」も培われています。これから先、新たな道を歩み始める皆さんにとって、これらの力が役に立ってきます。

未来の多くは不透明であり、時折不安を感じることもあるかもしれません。これからの社会はますます変化を加速させ、それに伴って未知の課題が多く待ち受けていると思いますが、函館高専で身につけた力を信じ、自信を持って進んでいってください。新しい生活での挑戦においては、失敗や困難もついてまわることでしょう。しかし、それらを乗り越えることが成長の一環であり、新しい可能性を見つけるキッカケとなります。失敗は成功のもとであり、挫折は新たなスタートの合図です。どんなときも前向きな気持ちを持ち続け、自分を信じてください。

そして、忘れてはならないのは人との繋がりです。函館高専で出会った友達や先輩・後輩そして先生方との絆は、これからも長く続くでしょう。それらの人との経験や共有した瞬間は、人生の中で最も豊かな宝物となることでしょう。これからも助け合い、共に笑い、困難を乗り越えていくことが、より豊かな人生を築く鍵です。

函館高専を卒業・修了し、新しい社会に飛び出す皆さんには、新たな役割と責任が待っています。そのなかで大切にして欲しいのは、自分の信念や価値観を大切にし、社会に対して貢献する姿勢です。小さな一歩から始めて、自分の道を切り拓いていくことが、社会に新たな価値を生み出す原動力となります。

生きていく上では、自分自身と対話することも大切です。人々の期待や社会のプレッシャーに振り回されず、自分の心の声に耳を傾けること。自分の価値観や夢に忠実であることが、豊かな人生を築く一環となります。他者と比較するのではなく、自分と向き合い、自分の道を進んでいく強さを持ってください。

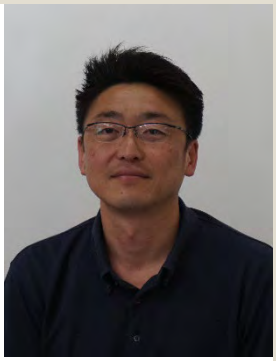
最後になりますが、これからも夢に向かって努力し、挑戦し続けてください。「成功」と「失敗」は反対の意味を持ちますが、失敗の繰り返しの中から成功が生まれてきます。失敗の繰り返しでもあきらめず目標に向かって努力してください。

これからの社会を築くのは皆さんです。皆さんのご活躍を大いに期待します。

担任教員・卒業生から

『卒業生へ贈る言葉』

生産システム工学科機械コース5年　担任　劔地　利昭



卒業生のみなさん、ご家族のみなさん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの学生生活のほとんどが新型コロナウイルスに振り回されたと思います。コース配属された直後の2年次初めにオンライン授業となり、クラスメイトと顔を合わせることもなく半年を過ごしました。部活動もできず想像した学生生活とは程遠かったと思います。

高専祭や行事も思ったようにできませんでした。ただ、皆さんの適応力には感心しました。オンラインでの製図やプログラミングの授業にも上手に対応していました。感染対策を考えながら、自分たちなりに工夫し、多くの思い出を作れたと思います。

4月からはそれぞれが新しい環境になります。いつも言っていましたが、安全第一・健康第一を心がけ、自信を持って過ごしてほしいです。ときには困難な事態に直面することもあると思いますが、その時は、同級生を頼ってください。『言いたいことを言わなくても伝わる仲間』は宝物です。もちろん、直接会ってきちんと言葉にするべきではありますが、難しければ同級生の顔を思い出すだけでも、少し安心すると思います。また、我々のところへは困りごとの有無に関わらず気軽に来てほしいです。成長した皆さんに会えることを楽しみにしています。

『卒業生からの言葉』

生産システム工学科機械コース5年　大森 弘楊

この学校に入学して早5年。時が経つのは早いものであっという間に卒業という運びになりました。楽しいこと、つらいこと、悲しいこと全て合わせてとても良い思い出です。

高専という特殊な環境が故に普通校と比較して見劣りするときもあるでしょう。ですが、その点を加味しても有り余るほどの良さがこの学校にはあると卒業間近で気づきました。5年間という豊富な時間、同じ志を持つ仲間、個性あふれる先生方など、我々が気付きづらいだけでこの学校は本当に素晴らしい環境に恵まれていると思います。今この時を大切にしてください。

さて、在校生の皆さんに向けて私から偉そうに言えることは見当たりませんが、1つお伝えしたいことがあります。それは協同と感謝を忘れないことです。生活していると様々な場面で自分だけではどうにもならない時が出てきます。そんな時は協同の精神で助け合って過ごしてください。そして、いつもそばにいてくれる学友に対して感謝の心を忘れずに過ごしてください。これだけで心のゆとりが広がり、より充実した学生生活になると思います。それではこれからの函館高専をよろしくお願いします。

在校生の皆さん、汝が夢を持て 大志を抱け 力強かれ。

『卒業おめでとうございます』

生産システム工学科電気電子コース5年　担任　湊　賢一

生産システム工学科電気電子コース第7期の皆さん、ならびに保護者の皆様、御卒業おめでとうございます。2年次から5年次までの4年間、担任としてクラスに関わらせて頂きました。2年次はコロナ禍初期の段階で、皆が対面で顔を合わせることができたのが7月中旬という非常事態の最中でした。慣れないオンライン授業も低学年時から受講し、様々なイベントや催し事が中止になる中で、刻一刻と変わる状況に対し、柔軟に対応せざるを得なかったのが、この世代なのかなと思っております。このような経験は社会に出てから非常に役に立ちます。コロナ禍により希薄になってしまった人対人のコミュニケーションですが、社会に出てから、その在り方が非常に大切になってくるのを実感すると思います。自分中心の考え方も時には大事ですが、しっかりと周りの人の気持ちを汲むことのできる人になってほしいと願っております。人への感謝の気持ちや謙虚な姿勢を忘れずに、挑戦の日々を送ってください。最後になりますが、自身の健康には充分に気を遣い、様々なところで皆さんが大きく羽ばたいてくれることを、担任という立場と先輩(電気第32期)という立場の両方からお祈りしています。

『在校生へ』

生産システム工学科電気電子コース5年　外館　円心

今思うと私の高専生活はあっという間だったと感じるしその中でいろんな経験・出会いがあった場所だと思います。2年生は本格的なレポート、勉強、実験に追われ、3・4年生は創造実験、5年生は就職活動と、毎年ハードモードでした。でも、そんなときでも5SEのみんなと協力し合うことで乗り越えてきました。5SEは仲が良く、やるときはやるクラスだと感じますが授業では反応が薄いクラスだったので先生方はやりづらかったと思います。

私の好きな言葉に「知識を知恵に」という言葉があります。知識が行動に紐付き、応用できるようになれば物事の道筋がわかり、うまく処理していけるということです。高専では勉強や実験を通して知識が沢山つきますがそれを自分の使える武器(知恵)にすることで問題を解いたりや物事の捉え方が楽になります。

最後に、在校生にアドバイスをするとしたら物事に取り組むのを早めにすることです。レポートやテスト勉強などは直前でも間に合っているかもしれませんが進路選択での就活や進学では取り返しがつかない場合があります。自分の将来のことなので簡単には決めることはできないと思いますが時間の余裕は心の余裕に繋がるので、悔いのない選択をしてほしい。

『身に着けた「芸」を大切に』

生産システム工学科情報コース5年　担任　小山　慎哉

令和5年度の情報コース学生は、就職者／進学者がほぼ半々でした。従来、進学率は30～40%が標準的でしたので、約50%になるのは珍しいです。進学してもっと多くのことを学びたい、という学生が多かったようです。また、企業も情報技術者を多く求めており、就職も引く手あまたの状況でした。一方で、就職・進学に限らず、受験で苦労した学生は少なくありませんでした。いくら情報技術者が不足しているとはいえ、欲しいと思える人でないと採用されない、ということだと痛感しました。

そんな中思ったことは、高専生活で身に着けた「芸」の大切さです。卒業後、人生の岐路が何回かありますが、そういう時に、皆さんに身に着いている知識や経験が活きてきます。特に意味も分からず受けていた授業の知識も、人生の意外なところで役に立つことがあります。高専で学習、経験したことは大事にしてほしいと思います。

また、「芸は身を助く」と言いますが、資格取得や語学など、「勉強したほうがいいかな」と気づいた・思いついた時点から少しでも実践していくと、いざというときに有効です。卒業後も自分をブラッシュアップして、後悔のない良い人生を送ってほしいと思います。

『第三種接近遭遇』

生産システム工学科情報コース5年　江戸　龍ノ介

早いもので入学してから五年近くがたちもうすぐ卒業です。この前入学式をやったばかりだと思っていたらもう卒業かぁ、なんて思っています。僕は青森から函館に来たのですが、函館は僕にとって憧れの土地であり、五年間住んでもその気持ちは変わりません。とても良い。ラッキーピエロとセイコーマートには本当にお世話になりました。

この五年間はいろいろなことをやっていましたが、僕が一番ハマっていたものは音楽です。一年生の後期に入った頃に暇だからという理由でギターを始めましたが、今でも趣味として続いています。コロナがありバンドなどは組めずに過ごしていましたが、去年後輩に誘われてFastSwingerというバンドに入りました。僕は卒業するので脱退してしまいますが、これからもよろしくお願いします。

そんな感じなのであまりクラスの人に趣味が合う人がいませんでした。5SJは基本みんなソシャゲや音ゲーをやっていた印象です。でもなんだかんだみんな仲良くしてくれたので良かったです。

それと情報科の先生には面白い先生が多かったです。僕が変な絡み方をしても対応してくれたすべての先生に感謝です。ありがとねぇ。

『母校を旅立つ皆さんへ』

物質環境工学科5年　担任　寺門 修

物質環境工学科7期生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。普段はおとなしい印象の7期生でしたが、日誌など何気ないところで見せたやや毒舌ぶりを考えると、出張ばかりの私やコロナ禍の本校の対応等々、いろいろ思うところがあったかもしれません。とはいえ、学科配属直後に互いの顔も知らぬままオンライン授業となり、1年次のクラスLINEグループなどを頼りにつながりを作っていくなど、難しい状況を軽やかに乗り越えました。そんな皆さんを心から尊敬しますし、今後を応援しています。

今年は少雪の函館ですが、この文章を書いている今は外で雪が降り積もっています。除雪はどうしますか？一人黙々とする人、諦める人、お互い協力する人もいれば、誰かにやらせようという人、除雪に来ないと自治体の文句を言う人、技術で解決を目指す人もいるでしょう。母校という言葉は、学んで卒業した学校を指します。皆さんにとって、函館高専は母校の一つになります。母校で学んだことを生かしながら、新しい地で様々な課題の解決法を見つけてほしいです。うまくいくことも、いかないこともあるでしょうが、いつでも母校に遊びに来て、お話を聞かせてください。

『卒業生の言葉』

物質環境工学科5年　小島 響

私からは、必死になることの大切さをお伝えしたいです。
この必死さというのは、なにも勉強や部活へのことだけではありません。バイトや遊び、人間関係全般にも言えるもののことです。

人間は活動にエネルギーを要するので、何もしていない方が楽です。必死に動き続けるのは辛いです。今の自分にとっては余計なもの、無駄なことだと思うかもしれません。

しかし、人間の心は変化します。どんな生き方をしたとしても将来必ず、今までの生き方を顧みることはあります。その際、かつて必死になったという経験は、たとえ無駄だったとしても宝になりえるのだと思います。

現に私は、この必死さを切り捨てて怠惰に生きたことを後悔しています。人生は誰に評価されるわけでも否定されるわけでもないため、逃れられない自責のみが存在します。人生には自分で責任を取るしかないのです。

みなさんは青春真っ只中。学生である今しかできないことに必死になってください。限られた時間を大切にして、楽しんで欲しいと思います。

私もまだまだ若いので、今から少しずつ必死になってみます！

『旅立ちを前に』

社会基盤工学科5年　担任　小玉　齊明

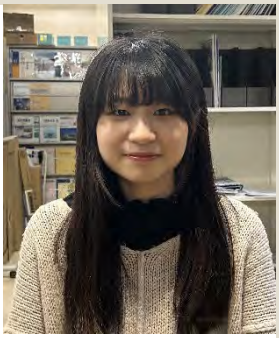
5年生の皆さん、卒業おめでとうございます。この5年間数々の困難を克服し卒業を迎えることができたことを、心からお祝い申し上げます。

社会基盤工学科の卒業生の皆さん、いよいよ4月から新たな世界への旅立ちですね。思えば2020年、学科配属と同時に新型コロナの混乱が襲い、慣れないオンライン授業がスタートしました。互いに顔の見えない状況で、分からないことばかり、当初は大変だったと思います。以降、徐々に学生生活は正常化しましたが、この5年間を通じて、皆さんは成長できましたか？精一杯頑張れましたか？幼い頃に思い描いた大人に近づけていますか？

この春、高専での穏やかな学生生活から一転して、会社や大学で大いに刺激的な毎日を送ることになると思います。人生で一度きりの20代前半、これから数年間で得る経験が、おそらく未来の自分にとってかけがえのない財産になると思います。大いに楽しみ・学び・悩み、着実に歩みを進めることで、きっと次に会うときは見違えるほど、今より更に大きく立派に成長していることと思います。楽しみにしています。

『在校生の皆さんへ』

社会基盤工学科5年　大澤　未桜



今これを書いているのは、学年末試験が直前に迫っているときです。終わって、一段落といきたいところでしたが、学年末試験と本論の締め切りに追われています。皆さんも、5年生になったときはちゃんと計画立てて進めていくことをおすすめします。

5年間という数字という数字は決して短くはありませんが、あっという間だったとは感じます。いろいろな人々との出会いと別れを繰り返し、様々な経験を経て、1年生のときよりも大人になったことを実感しています。

高学年になると後輩の相談事を聞くことが多くなりました。最近は恋愛相談をよく聞いています。恋愛も友情もそうですが、5年間という長い年月の中では何が起こるかわかりません。時には諦めが必要なときもあります。ですが、一番に自分が幸せになる道を選んでほしいと思います。

こんな偉そうなことを書いていますが、私も社会人になってたくさんの挫折を経験したり、泣いたりすることがあると思います。しかし、前向きに努力しながら、幸せになれるように頑張っていきたいと思います。

残りの高専生活を悔いの無いよう、楽しんでください。

修了生に贈る言葉

『修了生に贈る言葉』

専攻科長　平沢秀之

令和5年度専攻科2年生のみなさん、専攻科修了おめでとう！専攻科2年間の課程を修め、晴れて修了証書が授与されたことを心よりお祝い申し上げる。みなさんは平成に本科に入学し、7年間を本校で学び、令和に巣立つのだ。専攻科入学はつい2年前のことで「光陰矢の如し」の真なることが今更のように胸を打つ。この2年間の学びでみなさんは成長し、創造力・実行力をを大いにレベルアップさせただろう。

今思うと遠い過去のようだが、新型コロナが日本国内で蔓延し始めたのは、2020年からであった。クルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」の乗客が感染したニュースが盛んに報道された。以来、感染者数の増減とそれに連動して緊急事態宣言の発出や解除を繰り返し、国内や国外への移動が制限されるなど日常生活にも影響した。函館高専でも、学生には登校禁止の措置が数回実施され、オンラインによる授業や研究指導が行われた。みなさんは本科及び専攻科の大切な学生時代の一部を非常に制約の多い中で過ごした。残念な気持ちや虚しさが残るだろうが、楽しい思い出も多いと思うので、それを大切にしながら新しい道に進んで欲しい。

さて、その新しい道に進もうとする未来は、明るいのか暗いのか、望ましいのか望ましくないのか、全く予想がつかなくなってしまっている。2024年は、いきなり大地震で始まった。自然災害は今後も襲い掛かるであろう。個人レベルでは災害への備えを準備すること、国家レベルでは国土強靭化政策を推進すべきで、現状では、周期的に発生している東南海大地震、富士山噴火、首都直下地震が今後いつ起きてもおかしくない状況である。今年の11月にはアメリカ大統領選挙があり、「もしトラ」が出回っている。その中には日本に影響を与える重大問題もある。その一つは台湾有事だ。唯一トランプを制御できた安倍元首相はいないのだ。万一、アメリカの介入がないなら、日本は岐路に立たされる。もう一つ、フィンランドとスウェーデンのNATO加盟によりロシアが極東で南下して来る可能性があると識者は予想している。北朝鮮と一緒になって。そのときトランプに「日本で何とかして」と言われた日には、もう目も当てられない。北海道は戦場になる。一方、脱炭素に世界は邁進しているが、もしトラで脱炭素を止めると、この分野で遅れを取っていた日本は有利に転じるとの見方がある。

未来はこのように予想がつかないのだが、みなさんには様々な予想や憶測に注意を払いつつ、信頼性のある予想かどうかを判断され、幸福を追求し、自己実現の欲求を満たせる未来になってほしいと願う次第である。

修了生から

『専攻科という選択』

生産システム工学専攻2年　福田 暉斗

函館高専へ入学してから7年という長い年月が経過しました。私は大学編入に失敗し、専攻科へ進学しましたが、今となっては良い選択だったと思います。本科5年生の頃は、まだ自分の興味や将来のビジョンがはっきりしておらず、今思い返すとかなり安直に進路を考えてしまっていました。当時は編入に失敗して落ち込んだものですが、あの浅い考えでは試験に落とされて当然だと思います。専攻科進学後は、特別研究やPBLなどで忙しい日々が続きましたが、慣れた環境ということもあり、体感ではかなり時間的、精神的な余裕を持って過ごせていました。その中で、改めて時間をかけて自分と向きあったことで、自分は何に興味があるのか、何をしたいのかをようやく理解出来たような気がします。

春からは大学院へ進学し、自分の興味を追求する生活が始まります。本科で志望していた大学とは別の大学院になりますが、研究分野や研究環境、生活環境など、あらゆる面で自分にとってより最適な選択を出来たと感じています。専攻科も良いところばかりではありませんが、何らかの理由で妥協した進路を選択するよりは、専攻科へ進学し、色々と考え直してみるのも良いのではないでしょうか。

最後になりますが、7年間お世話になった方々、長い間ありがとうございました。

『修了生の言葉』

物質環境工学専攻2年　満保　天星

函館高専物質環境工学専攻2年、満保天星です。そう名乗る日が来るとは、思いもしなかった。高専入学時なんて専攻科の存在すら知らなかったし、5年生のときも最初は大学編入志望だった。それがこうして高専7年生になってしまい、のらりくらりともう最上級生ですよ。ここまでくると高専にも慣れたもんで、後輩たちに知ってほしい話なんかも持ち合わせるようになるんです。せっかく「修了生の言葉」ということなので、それをここに置いていこうと思います。

・先輩や先生とたくさん話しましょう。3つ4つ上の先輩、大学教授レベルの先生、高専はそんな方々ととても近い距離で話すことが出来る。同級生からは聞けないような面白い話を聞けるぞ。

・本気で勉強やレポートを進めるなら、放課後に教員室前のテーブルでやるのがおすすめです。基本静かなので作業に集中でき、わからない部分などはすぐに先生に聞くことが出来るのが魅力的、さらに仲間とおしゃべりしながらの勉強もできる！

・高専の学校体験やオープンキャンパスなどのボランティアは積極的に参加してみてください。そこで得られるのは化学知識だけでなく、その経験はプレゼン力などにも繋がるぞ。

以上、誰かに届け！

『渡辺力先生が大好きです』

社会基盤工学専攻2年　落合　楓

本科の卒業式から2年経ったとは思えないほどあっという間に過ぎた専攻科生活でした。私は専攻科入試の面接で、3つの目標を掲げました。1つ目は貪欲に研究することです。研究に費やせる時間が大幅に増加し、研究内容の奥深さにより一層魅力を感じました。学会発表の参加において、いろんな質問に回答することで理解を深めることができました。2つ目は留学経験をすることです。コロナ渦で諦めていましたが、先生方にお力添えいただきフランスのBethune工科大学に留学することができました。大学ではコンクリート工学の研究に携わり、設備やスケールの違いに圧倒されました。また、言語や文化のギャップを五感で感じながらも、たくさんの方とコミュニケーションを取ることができ、この経験は私の宝物です。3つ目はTOEICで高得点を取ることです。残念ながら、未だに目標点には達成していません。TOEICに自信がなくても留学できたので、皆さんのモチベーションになれば良いなと思います。最後になりますが、たくさんの先生方にご指導いただき、かけがえのない専攻科生活を過ごすことができました。本科を含め、7年間ありがとうございました。

留学生から

生産システム工学科機械コース 5年
AINUN SYUHADA BINTI MOHD SABRI (アイヌン)

3年前、日本に来る前にコロナウイルスが流行し、半年間マレーシアに滞在したことを今でも覚えています。その間、オンライン授業でしか学べませんでしたが、先生方はとても親切で、本当に何も聞き逃さないようにしてくれました。日本へのフライトが近づくにつれ、私の日本語はどんどん下手になっていき、クラスメイトや先生方に会うのがとても不安でした。でも、今まで出会った人たちはみんなとても親切で、理解もあり、おかげで何不自由なく日本で過ごすことができました。

3年間は本当にあっという間で、いつの間にかたくさんの良い思い出と経験を得ることができました。そのすべてが、今、そしてこれからの私をより良い人間へと成長させてくれました。この3年間をここで過ごしたことに後悔はまったくなく、もっと早くここに来ていればよかったと思うくらいです。最後になりましたが、この3年間お世話になったクラスメート、先生方、高専のスタッフの方々に心から感謝します。(出身:マレーシア)

生産システム工学科機械コース 5年
NUR AFIQAH SYAMIMI BINTI ROZALAN (シャミミ)

新型コロナウィルスの影響で函館に来てから3年も経たないのに、2年半の貴重な思い出ばかりが残っていることをとても嬉しく思います。函館に来た当初は、日本語に自信がなかったので、先生方や友達と話すのが怖かったです。しかし、皆が親切にしてくれただけでなく、いろいろなことを教えてくれたので、安心することができ、みんなには感謝しかありません。そこから、皆のおかげでだんだん自信がついて、函館高専で前向きに勉強することができました。

函館高専では、様々なことを学ぶことができ、ここに来てから大きく成長できたと感じています。高専での生活を振り返ってみると、将来にとても役立つ様々な経験を積むことができたので、その経験を活かしてこれからの人生をより良いものにできるように頑張っていきたいと思います。最後に、担任の先生をはじめ、高専の先生方、事務の方々にはいつもお世話になり、本当にありがとうございました。(出身:マレーシア)

『広くて親切』

生産システム工学科情報コース5年
DAVI ERNEST PRADIPTA（ダビ）

函館での最初の夜は忘れられない。初めて見るものすべてを「広い」という言葉で表現するのが一番しっくりきた。荷物を解いた後、親切な先輩たちが私たちを夜の散歩に連れて行ってくれた。どこまでも続いているように見える広大で照明のない林道、下り坂の階段、車も人もいない街並みは、活動的でありながら喧騒に満ちた東京のど真ん中とは正反対のものだった。ここに来たのは、持ってきた期待と経験したことは違うものだったかもしれないが、それでもここで生活し勉強したあっという間の3年間は何にも代えがたいものだった。ここで過ごした時間は、世界と自分自身についても数え切れないほどのことを学んだ。故郷のバリ、活気あふれる東京、ほのぼのとした函館高専、どれもそれぞれに素晴らしかった。ここで会った先生や友人たちはみんな親切で、親身になってくれた。山ほどあるお世話になりました。

虹

函館夜景

写真はいずれもダビさん提供

『3年間お世話になりました!』

物質環境工学科5年 HENG SOVANRACHANA (ラチャナ)

3年前函館工業高等専門学校に入学してからは、気候の違いなど今までにない環境だったので、私にとって新しい挑戦となりました。高専では、授業でも生活をする中でも日本語が中心でした。日本語に自信がなかった私は、函館に来て日本人と生活することができるかどうか、色々な悩みがありました。しかしながら、クラスのみんなが私に優しく接してくれたり、分からないことを教えてくれたりしたので安心しました。友達と過ごした時間は素敵な思い出になりました。高専での困ったことがあっても先生や友達のおかげで乗り越えられ、新しく環境に速く慣れることができました。3年間はあっという間に過ぎ、振り返ったら色々な経験を積むことができました。この貴重な経験が将来自己成長に役立てられるように活かします。最後に担任の先生をはじめ、高専の先生と事務の方々に最初から支えてくれて皆さんに感謝しています。本当にありがとうございました。

学校行事について ～ 学生主事からメッセージ

『今年度の学校行事を振り返って』

学生主事　渡辺　力

５月より新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に引き下げられ、学校行事などの制約も大きく緩和されました。本年度の学校行事は、原田創太さん（会長4Z）、石橋優一さん（副会長4C）、伊山夏椰乃さん（副会長3C）、福井宥真さん（会計4Z）、白戸公紳さん（会計3C）、芦田 佑太さん（文化局長4SJ）の学生会役員を中心に、「新しい取り組みの導入」「早めの企画・立案」を目標にして、これまで以上に活発に活動が行なわれました。

今年度より４月の新入生歓迎会が廃止となり、新入生へのクラブ活動紹介のために各団体のPR動画が学生会により作成されました。この動画の評判が良く、広報委員会では中学生への学校紹介にも使用しています。５月の学生総会、８月の全国大会壮行会、１２月の学生会役員選挙は、オンラインで実施されました。コロナ禍でオンライン開催を余儀なくされ、手探りで使い始めたYouTubeやTeamsではありますが、今ではこれらを使いこなし、ウイズコロナ時代の学校行事の開催方法が確立したように思います。また、制約を設けずに一般公開した高専祭は、模擬店、学科展示、前夜祭、ステージパフォーマンス、花火大会など見事に企画され、スムーズに運営されました。多くの来客があり、学生も久々に学校行事を満喫しているようでした。

一方、コロナ禍において停滞した学生生活に活力を与え、函館高専全体の活力を向上させることを目的として、『函館高専 活力向上プロジェクト』を実施しました。このプロジェクトに延べ7件の応募があり、次の2件が採択されました。

1. 函館高専「大・装飾ぷろじぇくと」（代表者4SJ芦田 佑太さん）
2. 函館高専音楽祭2023（代表者 3SM工藤 龍之介さん）

「大・装飾ぷろじぇくと」は高専祭の低学年企画として実施され、１～３年生の各クラスにおいて廊下の飾りつけやモニュメントの製作が行われました。函館高専音楽祭2023では、１１月に本校第二体育館において、本校学生によるジャズ、軽音楽、吹奏楽、ダンスの発表が行われ、多くの観客が音楽祭を楽しんでおりました。この活力向上プロジェクトは新年度も継続し、課外活動をさらに活性化させたいと考えております。

１年3組による装飾

函館高専音楽祭2023ポスター

イベント開催報告

『高専祭の開催と学生会の成長』

学生会会長 4年社会基盤工学科 原田創太

2020年1月、新型コロナウイルスの流行が始まり今まで当たり前にできていた式典や行事がなくなり、非常に多くの制限の中で学校生活を送ることとなりました。学校生活では体育祭、高専祭、学年末スポーツ大会などの学校行事の開催どころか授業すら行うことができなくなってしまいました。そんな中、我々学生会の先輩たちはコロナ禍でできる行事の模索、始業式や終業式の開催形態の変更などを行いました。これにより業務連絡や行事の効率化することができました。

さて、制限のない高専祭を経験したことがあるのは五年生のみで、他の学年は例年のことを何も分からない状態からのスタートでした。特に四年生は新型コロナウイルスが流行したタイミングで入学したため、感染対策などの制限のない行事はこの高専祭が初めてでした。ですが、全学年、全学科、全部活が様々な学科展示、クラス装飾、模擬店を出店し、分からないことだらけの中でも全力で高専祭を盛り上げ、全力で楽しむことができまいた。とても賑やかで楽しい高専祭となったと思います。

学生会では、制限のない高専祭を運営したことのある先輩は既に引退しており過去の資料や記録などからまさに手探りのまま動き出しました。最初はコロナ明け初の高専祭ということもありどうすれば学生全員が楽しめるのか、何ができるのかを考える所から始まりましたが、学生会役員全員で仕事を分担し効率よく準備に取り組めたことで、大きなトラブルも起きることなく最高の高専祭を開催することができたと考えています。校内の巡回の際やステージパフォーマンスの様子、全学生が笑顔で楽しそうに高専祭に参加しているのを見て、私は非常に感動しました。

私自身、会長として何をしたのかと問われれば胸を張って答えられるのは、『初めての事ばかりで例年通り（コロナ前）が通用しない学校行事の方向性を固め、皆を最後まで引っ張ることができた』ということです。そんな我々学生会四年生の背中を見て育った学生会の後輩たちは今回の高専祭を機に一層成長し、さらに良い学校行事を創り上げてくれることと思います。

『ガールズオープンキャンパス2023』

女子学生支援（サポート）室長 物質環境工学科 准教授 松永 智子

令和5年10月21日（土）にガールズオープンキャンパス2023を開催しました。ガールズオープンキャンパス（GOC）は女子学生とその保護者を対象としたイベントで、4回目となる今回は、函館市内外から午前の部・午後の部を含めて84名の参加がありました。参加者には、David Taquet先生による遠隔授業に加え、生産系実験「光る指輪」、社会基盤系演習「構造と景観」を、また高専校内をめぐるキャンパスツアーでは宮武先生、蛯子さんのご協力の下、水工学実験室を見学し津波の発生メカニズムを体験してもらいました。生産系実験で原理を学んだ上で手にする電子工作のお土産（今年は光る指輪。毎年レベルアップを重ねていて、理系女子実験隊の密かな見せ場でもあります）は、毎年大変好評です。社会基盤系演習はGOCでは初の試みでしたが、こちらも大好評！

本イベントでは、本校女子学生が案内役・講師役を務めますが、今年も4年生が中心となって、事前準備から当日の実験指導までしっかりやり切ってくれました。そして、上級生の頼もしいリードの下、2・3年生そして新しく加わってくれた1年生も、生き生きと講師役を務めることができました。このような女子学生がキラキラ輝く姿は、函館高専GOCの一番の見どころになっています。キャンパスツアー終了後は、参加中学生と本校の女子学生が同じテーブルを囲んでざっくばらんにトークに花を咲かせます。はじめは緊張した様子の中学生が、トークが終わる頃にはすっかり打ち解けて高専女子モードになっているのを見ると、終了時間をお知らせするのが少しためらわれます。この他、GOCでは希望者には寮見学も受け付けています。女子寮の教室や食堂など春潮寮での生活環境を入寮者以外が実際に見ることができるのは実質この時だけです。

2020年に始まった函館高専GOCですが、実験隊の女子学生にもじわじわとGOC出身者が増えてきて嬉しく思っています。終了後のアンケートには、保護者の方からの「学生の方々のコミュニケーション能力やプレゼンテーションにとても好感を持ちました」といったものをはじめ、中学生からは「遠隔授業はとても面白く、タケ先生がすごくかっこよかったです」「社会基盤の津波のやつが一番かっこよかったです」などのコメントもあり、掴みはバッチリのイベントとなっています。

『函館高専を音大に!』

函館高専音楽祭実行委員代表
生産システム工学科機械コース3年　工藤龍之介

令和5年11月11日(土)、第二体育館において「函館高専音楽祭2023」が開催されました。演者、客全員によるカウントダウンの後、rengchangpingこと石川簾さんによる華やかなDJと共に開演されました。全8団体、4時間にわたる多種多様なパフォーマンスで会場は音楽祭の名にふさわしいお祭りムードとなりました。もしゃす軍艦(軽音楽部)、吹奏楽部、ダンス愛好会、Fast Swingerと本校の音楽系クラブ全団体が参加した上、個人団体としてrengchangping、ダンスラな人たち、江戸龍ノ介、UNiSONが参加しました。来場者は100名を超え、ご高齢の方から小さな子供まで幅広い年代の方に来ていただくことができました。

このイベントの目的は大きく分けて3つです。1つ目は「他校に比べて音楽と接する機会が少ないこの高専に音楽を溢れさせたい」です。函館高専には学校祭での合唱が無いどころか音楽の授業もほぼ存在していません。そんな本校に少しでも音楽と深く関わることのできる機会を設けたいと思いました。2つ目は「新型コロナウイルスの影響で幾度となく規模縮小をしていた学校行事の盛り上がりを復活させる」です。だんだんと規制が緩まってきた今、多くの人に楽しんでもらえるイベントを企画できないかと考えた結果、音楽祭という形になりました。3つ目は「函館高専に新たな伝統を創る」です。音楽祭は今年度だけではなく来年度、再来年度、僕が卒業した後も受け継がれるような伝統行事にしたいと考えています。

僕は函館高専を音大にする…とまでは言いませんが少なくとも函館高専の特色として「学生が音楽を本気で楽しんでいる」という認識を世間に浸透させたいと思っています。今回行われた函館高専音楽祭2023は初の開催でありながらも企画・運営や設営、司会進行などほぼ全ての工程を学生中心に進めることができました。協力してくれた皆さん本当にありがとうございました!

クラシックやジャズ、DJや弾き語り、ダンスなど様々な方向性の音楽が飛び交う音楽好きには堪らない一日となりました。閉会時、僕は「また来年、函館高専音楽祭2024でお会いしましょう!」と締めくくったので今年も全力で企画・運営に挑みたいと思います。

各種大会・コンテストでの活動

『ロボコンだけじゃない、高専プロコンも頑張ってます！第34回大会報告』

生産システムエ学科情報コース　准教授　倉山めぐみ

福井県鯖江市にあるサンドーム福井にて、2023年10月14日～15日に行われた、全国高等専門学校　第34回プログラミングコンテストの課題部門、競技部門に参加してきました。今回は、課題部門に5年生5名、競技部門に3年生2名（参加直前に病欠のため1名欠席）で昨年の余韻を残した学生たちを引き連れての参加となりました。昨年の会場と異なり、課題・自由部門のプレゼンテーション会場を除き、学生の控え場所となっている席からは、競技部門のステージと課題・自由のデモ会場、協賛企業による展示が一望できる広々とした会場で行われました。今回の結果は、競技部門が予選敗退、課題部門が特別賞となりました。

6月の予選を通過し、昨年からメンバーを少々変え参加となった課題部門チームは、「ANNECT」というシステムを開発しての参加となりました。今年も課題のテーマは、昨年同様、『オンラインで生み出す新しい楽しみ』でした。昨年は、オフラインでオンラインのゲームを開発し、でかいシステムをせっせと運びましたが、昨年の反省を生かし、今回の作品「ANNECT」は、スマートフォンサイズの大きさで、デジタルペットを安価に作成したシステムとなりました。作品を見に来た審査員や企業の方々からは、「あれ、良いですねー」と声をかけられることも多く、昨年とは一味違う作品ですねと、感想をいただいてきました。今回は特別賞でしたが、チームメンバーの成長は著しく、前回緊張のあまり、色々と大変でしたが、落ち着いた様子で、プレゼンやデモをこなしていました。

競技部門は、初めての参加の学生で、かつ参加直前にメンバーが1名減るという大変な状況ではありましたが、参加した2名（日本人学生と留学生のチーム）は、寝ることも忘れそうな勢いで、必死に大会前日・当日もプログラムの修正を行っていました。残念ながら、予選敗退となりながらも、競技部門の面白さにはまっていた様子を見ることができました。

今年度の様子についても、HPに当日配信された動画のURLが記載されていますので、興味を持たれた方は、ぜひ見ていただければと思います。次年度は、奈良にて第35回が実施予定となっています。5年生のメンバーが卒業となったあと、引き継いで参加する学生は、ぜひプロコン研究会へ！

『ロボコン2023北海道地区大会』

ロボット研究会顧問　生産システム工学科　准教授　川合政人

令和5年10月1日（日）に苫小牧高専にてアイディア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2023北海道地区大会が開催され、道内4高専8チームが参加し、本校からは高学年中心のAチームと低学年中心のBチームが出場しました。

今年のテーマは「もぎもぎ!フルーツGOラウンド」で、いかに早く「2種類の障害物を乗り越え」、いかに多くの「フルーツを収穫する」かを2分30秒間の試合で競う、対戦形式の競技でした。1種類目の障害物は角材を並べた凸凹を乗り越える、2種類目の障害物は、2本のポールの間にだらりと渡されたロープをくぐり抜ける、というものでした。
ロープの障害物のクリアの仕方でA・Bチームはまったく異なるアイディアに挑戦しました。Bチームはロボット前方のベルトコンベヤーでロープをすくい上げて、そのままロボット上部を滑らせる方法でした。Aチームは、マジックショーの胴体切断のように、ロボットの胴体部にロープをくぐり抜けさせる機構を内蔵するアイディアに挑戦しました。フルーツに見立てたカラーボールの回収方法については、Aチームは強力な掃除機を流用した吸引、Bチームは「メカニカルアイリス」というカメラの絞りに使われている機構を利用した方法に挑戦しました。

試合では、Aチームは予選グループ1勝1敗での敗退となりました。ロボットの胴体をロープがすり抜けるという面白い機構を披露したかったのですが、試合本番で思うような動作ができず、残念な結果となりました。Bチームは予選グループで2勝を挙げて準決勝に進出しました。準決勝ではトラブルにより得点できず審査員判定での敗退となりましたが、予選の試合では、狙い通りのうごきでフルーツの収穫に成功するなど、見せ場を作りました。

今年度は、ここ数年と比べて競技課題の難易度がコロナ禍以前の高いレベルに戻ったという印象を受けました。学生たちは、コロナ禍以前の経験が無い状態でしたが、アイディアを出し合って競技課題に取り組んでいました。近年、機械コース以外の部員が多い傾向です。特に今年のBチームは電気電子コースの2年生が多く機械設計で苦労することが多かったように思いますが、今回の経験を次回に生かしてもらいたいと考えています。

最後に、日頃より大会に向けてロボット研究会をご支援くださった多くの皆様、大会運営に携わってくださった皆様、当日応援してくださった皆様に心よりお礼申し上げます。

『令和5年度全国高等専門学校水泳大会個人戦優勝』

水泳部顧問 生産システム工学科 教授 山田 一雅

今年の真夏の高校生のスポーツの祭典、インターハイ水泳大会（高体連全国大会）が、札幌地区道立野幌総合運動公園で日本水泳連盟公認の50mプールで開催されました。NHK生中継もされ、函館高専水泳部インターハイ全国出場選手が参加しました。その選手は我が校の社会基盤工学科第3学年の櫛引 悠太（くしびき ゆうた）さんです。このインターハイに男子平泳ぎ200m出場にとどまらず、皆さんご存知のとおり、校舎垂れ幕にありますように、全国高専体育大会（専体協全国）男子平泳ぎ200mの優勝を果しました（また男子平泳ぎ100mにも出場）。じつは昨年度専体協全国は、残念ながら不参加、2年前の一年生次の秋田大会では残念ながら満足な成績には至りませんでしたので、三年目の今年はとても良い夏になったと思います。これまで苦しい練習を頑張ってきた成果です。さらに今年はなんと！函館高専は、水泳全国専体協対校得点順位で堂々の24位（47高専中。ちなみに北海道は苫小牧高専も14位）に入るという快挙もなしとげました[表1]。写真の2枚は、専体協での長野総合市民プール（アクアウィング）長野県長野市8月25日(金)&26日(土)で競技が行われた時の200m男子平泳ぎ表彰式の様子です。真ん中が優勝の櫛引 悠太さんで、また今年度の函館市民の函館市スポーツ賞（函館市スポーツ振興課）を見事に受賞されました[1]。受賞の記事はインターネットからも見ることができます。ほんとうに櫛引さん優勝おめでとうございます。

表1 R5.2023第29回全国高等専門学校水泳競技大会 総合成績

1	1	神戸市立	169
2	2	徳山	90
3	3	長岡	51
4	4	福井	47
5	5	一関	45
6	6	小山	44
7	7	都城	34
8	8	仙台高専名取	33
9		呉	33
10	10	岐阜	29
11	11	北九州	28
12	12	奈良	27
13		阿南	27
14	14	苫小牧	25
15	15	新居浜	23
16		富山高専本郷	23
17	17	豊田	18
18		香川高専詫間	18
19	19	米子	17
20	20	佐世保	15
21	21	群馬	14
22		富山高専射水	14
23	23	高知	13
24	24	函館	12
25	25	秋田	9
26	26	八戸	8
27	27	有明	7
28	28	福島	6
29		沼図	6
30		長野	6
31		大島商船	6
32	32	鹿児島	5
33		沖縄	5
34		東京	5
35	35	鶴岡	4
36	36	香川高専高松	3
37		熊本高専熊本	3
38	38	鳥羽商船	3
39	39	津山	2
40		鈴鹿	2
41	41	木更津	1
42		和歌山	1
43		仙台電波広瀬	1
44	44	熊本高専八代	0
45		久留米	0
46		茨城	0
47		鈴鹿	0

[1]市政はこだて2024, 2月号, Vol.1019, pp.5-5.https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/20140207000911/file_contents/P04-P08.pdf (2024.01.31閲覧)

『令和5年度全国高等専門学校将棋大会個人戦優勝』

生産システム工学科電気電子コース2年　齋藤くらら

昨年度は準優勝だったので今年こそは優勝するという気持ちで大会に臨み、この大会で私は優勝というこれ以上ない結果を残せました。
女子個人戦は今大会二日目の午後から始まりました。二日目は予選で、決勝トーナメントに上がれるかどうかの試合だったためとても緊張しました。2日目の最後の対局は決勝戦の対戦相手でした。令和3年度の大会で優勝経験がある実力のある方だったためこの対局は力が入りました。試合では、私が悪手を指してしまいましたが、あきらめずに最後まで粘り、その結果勝つことができました。これが決勝戦につながる大きな自信になりました。大会三日目は女子個人戦決勝トーナメント。勝負を分けるのは冷静に落ち着いて指せるかどうかだと思います。昨年度も決勝トーナメントに出場できたため経験のある舞台だったのでリラックスして臨むことができました。決勝戦での試合では、序盤から終盤まで気を抜くことなく集中して指すことができた結果か最後に勝利をつかむことができました。
自分の中で去年から目標にしていた優勝が達成できて本当にうれしかったです。また次なる目標を見つけて努力していきたいです。

『男子バレーボール部 春高バレー地区優勝で全道大会出場』

男子バレーボール部監督 生産システム工学科 准教授 劔地 利昭

令和5年10月8日、9日に第76回全日本バレーボール高等学校選手権大会（春高バレー）北海道代表決定戦函館支部予選会が開催されました。男子バレーボール部は接戦を制し優勝しました。これまで高校生のバレーボール大会において函館高専が優勝したことはなく、初の快挙でした。全道大会は11月15日～18日に札幌市で開催されました。一回戦で札幌白石高校と対戦し、1セットを取りましたが、惜しくも敗退しました。

今年度の男子バレーボール部は5年生1名、4年生1名、3年生9名、2年生1名、1年生7名、マネージャー3名が主に活動しています。部員同士の仲がとても良く、かつて所属していた部員が体育館に遊びに来る姿をよく目にします。ほとんどが寮生のため長期休暇中のチーム練習はできず、地元の中学校や高校にお邪魔し自主練をして過ごす選手もいるようです。今大会の主力メンバーである3年生が1年生のころには、仲の良さが災いし、寮で多くの方々に迷惑をかけてしまいました。その度に「勝っても褒められないチームでは残念だ。生活面から見直そう。」と、部員間で声を掛け合い、少しずつではありますが成長していると感じています。（まだ迷惑をかけ続けている部分もあり、申し訳なく思っています）

チームが強くなった要因として、5年生の豊原怜旺さんの存在が大きいです。この大会でもコーチとして帯同してくれてチームを優勝に導きました。彼が3年生のころ、1年生だった今の主力メンバーを厳しく鍛え上げました。コートの外では一緒にふざけ合って仲良く遊んでいても、コート内でバレーに関しては妥協せず、厳しい口調の時もありました。1年生もそれに応えるように真剣に練習し、強くなっていきました。練習後は寮で自分たちの練習や試合の動画を見ながらミーティングをしていたそうです。部員全員がそれぞれ考え続けた結果が地区大会優勝につながっていると感じています。

最後に、この文章を読んでいる在校生や中学生には、高専での部活動がとても楽しいことを感じてほしいです。3年生までは高校生と同じ大会に出場できます。そして3年生で引退せず、高専だけの全国大会もあります。全国優勝を目指してほしいです。高校の強豪チームのような指導体制ではありませんが、自分たちでどんどん工夫して自主的にやれる環境があります。目標を達成したときは言葉では表せないくらい感動するでしょう。どんなことでもいいので、興味のあるものにチャレンジしてほしいと思っています。

全道大会出場にあたりバレー部の諸先輩方から多大なるご支援を賜りました。誠にありがとうございました。この場をお借りし御礼申し上げます。

『令和5年度全国高等専門学校体育大会等での学生の活躍』

学生主事　渡辺　力

令和5年5月より新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に引き下げられ、それまで行っていた課外活動の時間制限等は撤廃となりました。基本的な感染症対策は講じた上で、課外活動が活発に行われています。
7月に、北海道地区高等専門学校体育大会（地区大会）が道内4高専で開催され、函館では剣道、ソフトテニス、ハンドボールの3競技の地区大会が開催されました。この地区大会の結果を受けて、令和5年8月中旬から9月上旬に、一般社団法人全国高等専門学校連合会及び関係協会主催による全国高等専門学校体育大会（全国大会）が関東信越地区を会場に開催されました。なお、ラグビー競技については、例年通り令和6年1月上旬に実施されています。本校からは9競技約80名の学生が、北海道地区の代表として全国大会に出場しました。
練習に熱心に取り組み、その成果を残そうと一人一人の学生が全力で大会に臨んだ結果、水泳競技と将棋大会において、見事に全国大会優勝を果たすことができました。男子平泳ぎ100m優勝の3Z櫛引悠太さん、将棋大会女子個人優勝の2SE齋藤くららさんの栄誉を称え、校舎に横断幕が掲げられました。なお、将棋大会は、体育大会とは別の枠組みにより、全国高等専門学校将棋大会として開催され、令和5年度は岐阜市で開催されました。
惜しくも入賞には至らなかったチーム・選手の皆さんも含め、地区大会及び全国大会に出場した学生諸君の健闘を称えるとともに、今後の学校生活がより有意義なものとなるよう、学業と課外活動の両立を継続して頂きたいと思います。教職員一同もその支援に努めて参ります。

（1）令和5年度全国高等専門学校体育大会等の上位入賞競技

水泳競技 全国第1位(優勝)男子200m平泳ぎ 8 月25 日(金)～8 月26 日(土) 長野運動公園総合運動場 総合市民プール（アクアウィング）	3Z櫛引悠太
将棋 全国第1位(優勝) 8月23日(水)～8月25日(金) じゅうろくプラザ5F（岐阜市）	2SE齋藤くらら

(2)令和5年度全国高等専門学校体育大会等出場競技及び出場学生

種目	日時・会場	出場学生
ハンドボール	８月３０日（水）～９月１日（金） 八王子市総合体育館エスフォルタアリーナ八王子	○団体 大澤泰輔（5SM），片桐颯大（5SE），加賀奏汰（5SJ）， 中山青哉（5C），滝野柊斗（4SJ），小林栞大（4C）， 佐々木起輝（4C），吉田匡佑（4C），本間愛和（4Z），佐藤壱成（2SM）， 花田真一郎（2SE），藤谷亮太（2C），柴田一護(11)，伊藤介城(12)， 沖野作(12)，小田原瑠廣(12)
バスケットボール	８月２３日(水)～８月２４日(木) 大田区総合体育館	○女子団体 前田日桜里（5C），亀谷孝海（4Z），三川ゆい（4C），伊勢谷すずほ（4C），三浦結翔（3SM），三浦結菜（3SJ），佐藤夕波（3Z），阿部來瞳（3Z）， 寺尾香梨奈（3SM），浅利日菜子（2C），谷内華(12)，亀谷桜月(12)
バドミントン	８月30日（水）～９月１日（金） 水元総合スポーツセンター体育館	○男子団体 石井真平(5SM)，加藤拓未(5SM)，髙橋大貴(4SM)，能登高嶺(4SM)， 田中誠一郎(4Z)，奈良宝(3SM)，内藤優希(3C)，山田涼太(3C) ○女子個人 石井彩水(5SE)
卓球	８月１９日（土）～８月２０日（日） ひたちなか市総合運動公園総合体育館	○男子個人 濱名耕輔(4Z) ○女子個人 岩山さつき(1-5)，加藤捺々蓮(1-3)
テニス	８月２９日(火)～８月３１日（木） 有明テニスの森公園	○男子団体 外舘円心(5SE)，羽鳥虎太郎(4SM)，町谷駿太(4SM)，米村有生(3SE)， 谷目蒻(3SM)
陸上	８月２６日（土）・２７日（日） デンカビッグスワンスタジアム	・男子 100m　山本　尊琉（2SM），二村　奨哉（2SJ） ・男子 800m　深川　寛聡（5SE） ・男子1500m　深川　寛聡（5SE） ・男子110mH　松井　翔飛（5SM），山本　尊琉（2SM） ・男子400mH　松井　翔飛（5SM） ・男子4×100mR　二村　奨哉（2SJ），川口　斐脩（2SM） 地主　丈人（3C），山本　尊琉（2SM） ・男子走高跳　地主　丈人（3C），地主　湧（15） ・男子走幅跳　地主　丈人（3C），川口　斐脩（2SM） ・男子円盤投　若山　和雅（5C） ・男子やり投　若山　和雅（5C） ・女子 100m　長岡　穂華（3C） ・女子 800m　長岡　穂華（3C） ・女子走幅跳　鈴木　穏（2SM）
水泳	８月２５日（金）～８月２６日（土） 長野運動公園総合運動場総合市民プール（アクアウィング）	・男子平泳ぎ100m　櫛引 悠太（3Z） ・男子平泳ぎ200m　櫛引 悠太（3Z） ・女子背泳ぎ100m　山下 莉央（1-4） ・女子自由形 50m　山下 莉央（1-4）
将棋	８月23日(水)～８月25日(金) じゅうろくプラザ 5F	○団体戦 堀口雄伍(3SJ)，中村祥吾(5C)，齋藤くらら(2SE) ○男子個人 中村祥吾(5C)，西山海斗(3SJ)，堀口雄伍(3SJ) ○女子個人 齋藤くらら(2SE)
ラグビー	令和６年１月４日(木)，日(金)， ７日(日)，９日(火)（４日間） 神戸総合運動公園補助競技場	大澤泰輔(5SM)，片桐颯大(5SE)，寺内慎(5C)，蛯子玖龍(5SE)，中野夢絃(5SJ) 成田大翔(4SE)，工藤海久斗(4SE)，汐見千也(4SE)，本間快斗(4SJ) 東出理来(4SJ)，本間愛和(4Z)，アファマドイルファン(4Z) 中野名惺(3SJ)，藤澤大道(3Z)，福田翔太(3Z)，村田悠希也(1-1)，佐々木雅斗(1-4)

国際交流報告

『令和5年度 函館高専モンゴルグローバル探究について』

グローバルセンター長 一般系 教授 奥崎真理子

令和5年8月28日より、12名の学生をディビッド タケ先生と共に引率し、11日間の日程で、グローバル探究を指導した。新モンゴル高専をベースに、モンゴル高専、科技大モンゴル高専とも交流活動を行ったが、学生たちは、6月から、須藤先生を中心に、オンラインでモンゴルの学生たちと交流を始めており、8月にモンゴル3高専の学生12名を招いたサマーキャンプにも参加していたので、モンゴル学生とのつながりやモンゴルに対する関心の度合いが程よく強まった好機での訪蒙となった。

ホスト校の新モンゴル高専は、保護者に呼び掛けホストファミリーをお世話して下さっており、函館高専生は2名ずつ、それぞれのご家庭でモンゴルの普段の生活や伝統文化など学ぶことができた。訪問時期がモンゴルの新学期と重なったことで、我々はモンゴル高専と新モンゴル高専の入学式に来賓として招待され、日本の入学式とは異なる式典の様子も見学できた。また、モンゴルでは、幼稚園から小学校、中学校、高校、高専まで、入学式を同じ日に行うことから、最たる交通渋滞に遭遇し、モンゴル高専から新モンゴル高専まで戻る際に乗車した市営バスでは、ぎゅうぎゅう詰めの恐怖も1時間ほど味わった。週末はゲルに寝泊まりするアウトドアキャンプも体験した。

滞在6日目には、日本大使館を訪問し、伊藤頼子二等書記官に一人ずつ探究活動を中間報告する機会を得た。伊藤書記官からは、激励のお言葉と、日本大使館が日本とモンゴルの国交やモンゴルの経済文化支援に果している役割についてお話を頂戴した。

以下に、12名の学年氏名とモンゴルグローバル探究テーマを示す。

1—2 岩渕釈和 「ウランバートルのインフラ」
1—2 田口鈴紗 「モンゴルの砂漠化」
1—3 澤村優希 「モンゴル相撲」
1—4 速水俊太朗 「モンゴルのゴミ問題について」
2SE 川口銀星 「ウランバートルのゴミ問題について」
2SJ 麻生耕希 「レシートに印刷されているQRコードについて」
2SJ 三橋向大 「モンゴルの建築物について」
2CC 太田慎之輔 「ゲルの特徴と応用」
2CC 丹代ヒカリ 「モンゴルの立ち枯れ木」
2CC 富所風花 「モンゴルの気候問題と研究」
2CC 中村匠見 「モンゴルの動物たち」
2ZZ 黒田悠太 「ウランバートル市内輸送」

モンゴル滞在最終日には、新モンゴル高専で、在校生60名ほどが見守る中、12名が各自の探究成果について日本語で発表した。そして、新モンゴル高専校長オユンジャルガル先生から一人ずつに記念品が手渡され、ホストファミリーの学生たちと共に、温かい拍手を頂戴した。

帰国後12月16日に開催された海外派遣学生報告会で、学生たちは最終発表を行った。一人ひとりが自信に満ちた態度で体験に裏打ちされた探究活動を報告していた。それぞれの探究活動がこれから進化・変化し、新たな探究活動の推進に繋がることを願うばかりである。

写真1:グローバル探究報告後、伊藤頼子二等書記官と記念写真

写真2:ゲルキャンプにてゲルの解体組み立て体験

写真2:新モンゴル高専講堂にて、グローバル探究発表後の記念写真

『国際交流の状況について』

グローバルセンター長　一般系　教授　奥崎真理子

令和5年度の国際交流事業は大幅に拡大した。最たるものが海外派遣学生の人数である。令和4年度6名だったものが、令和5年度は、12月までに34名を数え、令和6年3月の台湾研修22名、シンガポール語学研修7名を加えると、総勢63名となる見通しである（10倍以上！）。

派遣者数の増加は、阿部校長が目指す「グローバル化が急速に進む国際社会で、海外の教育機関と連携し、国の枠を超えて社会の課題発見・解決する、“自ら考えて行動できる力”を持ったグローバルエンジニアの育成」という函館高専の教育ビジョンを具現化した結果であるが、本校の教職員の踏ん張りと保護者の皆様の御理解、協力会のご支援、そして学生自らの「学ぼう！変わろう！挑戦しよう！」という心意気があってこその数字である。

以下、令和5年3月末から令和6年度までに函館高専が実施、または予定している国際交流活動についてまとめる。

【3月】JSTさくらサイエンスプロジェクトグローバルセミナー実施（7日間・タイ・シンガポール・モンゴル3か国から15名招聘・参加学生38名・函館高専学生18名）
【4月～6月】フランスLilleIUT・BloisIUT短期留学生受入（4名）
【6月～7月】グローバル探究実施（モンゴル3高専とオンライン交流・函館高専学生17名）
【8月～9月】
・JSTさくらサイエンスプロジェクトサパーキャンプ実施（モンゴル3高専9名招聘・函館高専学生15名）
・シンガポールNYP長期研修派遣（函館高専学生4名）
・シンガポールTPグローバル探究短期研修派遣（函館高専学生7名・八戸高専と合同）
・モンゴルグローバル探究短期研修派遣（函館高専学生12名）
・台湾聯合大学長期研修派遣（函館高専学生2名）
【9月～10月】
・ベルギーUCLL長期研修派遣（函館高専学生3名）
・ベルギーHenallux長期研修派遣（函館高専学生2名）
【10月】ベトナム高専支援事業（函館高専教員2名）
【11月】フィンランドTurku UAS・Metropolia UAS視察（函館高専教員4名）
【12月】タイ-日本学生科学祭参加（函館高専：学生4名・教員2名）
【1月～2月】台湾聯合大学短期留学生受入（1名）
【1月～5月】ベルギーHenallux短期留学生受入(2名)
【2月～6月】ベルギーUCLL短期留学生受入（3名）
【3月】
・JSTさくらサイエンスプロジェクト多国籍グローバルキャンプ（7日間・タイ・シンガポール・モンゴル招聘・参加学生39名・函館高専学生18名参加予定）
・台湾研修（台湾聯合大学訪問を含む3泊4日・函館高専学生22名参加予定）
・シンガポールSP語学研修（10日間・函館高専学生7名参加予定・八戸高専と合同）

函館高専が将来の日本と世界を支える人財を育成するために、グローバルセンターの役割はますます重要になる。学生と教職員一人ひとりが自己効力感を高めつつ、エンパシー（他者・異文化への共感性）を育める学校づくりに寄与したい。

写真：モンゴルグローバル探究引率時、函館空港で出迎えた保護者の皆さんと全員で集合写真

学生寮から

『春潮寮通信』

寮務主事　川上　健作

本年度はコロナウイルス感染症も5類に変更になり、寮でのイベントも予定通り開催されています。コロナ禍で一度行事がほぼできなくなったことで、実施方法などを見直し本年度実施した行事について紹介したいと思います。

◎4月：新入生歓迎会・全寮集会

寮生会が企画した新入寮生の歓迎会が実施されました。新入寮生は緊張しながらも自己紹介と先輩との顔合わせが行われました。

◎4月：学科別親睦会、SNSマナー研修、一斉学習指導

第1学年の寮生に向けて各学科所属の先輩たちが学科の特徴や学科選択のアドバイスなどを行う学科別親睦会が開催されました。また、合わせて第1学年の寮生に向けて主事からのSNSマナー研修と一斉学習のやり方などの指導が行われました。

◎5月：防災訓練

本年度から国際棟が春潮寮の一部として加わりましたので、国際棟も合わせて火災を想定した避難訓練を実施しました。数年ぶりの本格的な防災訓練で少し混乱や不具合もありましたので、今後に改善したいと考えます。

◎6月：定期総会

寮生会の定期総会が行われ、本年度の予算案やコロナ禍明けの寮の体制や変更点などについて議論されました。コロナ禍明けの寮体制の変更についての周知が改めて行われました。

◎7月：七夕交流会（写真1）

昨年度は、第1学年の寮生と担任の先生との行事でしたが、本年度は全寮生対象として、願い事を書いた短冊を笹に飾り、お菓子を受け取りながら交流をはかりました。その後、願い事を書いた短冊は、湯倉神社に奉納されました。

◎10月：寮祭（写真2）

昨年度実施できなかった寮祭ですが、本年度は内容を一新し、無事実施できました。本年度は、久しぶりの開催ということでゲームやカラオケ大会を実施し、参加者は楽しんでいました。

◎11月：テーブルマナー講習会（写真3）

第4学年の学生を対象としたコース料理を食べながらのマナー講習会が開かれました。会場は毎年お願いしている五島軒で行われました。

◎11月：春潮寮スポーツ大会（写真4）

春潮寮スポーツ大会が開催されました。実施競技はドッジボールとバスケットボールです。参加した学生は楽しそうに競技をしておりました。

本年度、予定していた行事は、無事開催できました。問題点も見受けられましたが、今後も改善しながら寮生には充実した寮生活がおくれるよう祈っております。

『国際棟通信』

寮務主事補　一般系　教授　臼田　悦之

今年度から国際寮は春潮寮の一部(新たな棟)という位置づけになり、名称が国際棟に変更されました。従いましてタイトルは「国際棟通信」となります。さて、新たなスタートを切った国際棟は、令和5年12月現在、女子4名、男子8名の留学生が国際棟に在寮し、シェアハウスのようなユニットと呼ばれる居住空間で日本人寮生と寝食を共にしております。短期外国人研修生が来ると、文字通り国際色豊かな寮となります。一例としては、マレーシア人・ラオス人・日本人・フランス人の4か国の学生からなるユニットが出来上がります。共同生活を通してお互いの文化の違いを理解し合い、考え方の違いや意見の食い違いを乗り越えることで、社会に役立つグローバルなマインドを涵養しているようです。今回も3人の国際棟生に語ってもらいました。

国際棟での生活はとても充実しています。これまで様々な国籍の人と交流ができて楽しい毎日を過ごしてきています。時には言語の壁を越えて、深い友情を築くこともできました。笑い合い、笑顔が溢れる食事の時間は最高の思い出になっています。お互いの国の文化に触れ合うことだけでも新鮮な感覚になります。短期留学でフランスやシンガポールから来た研修生が一時期いました。私はこの機会を活かし、積極的に英語でコミュニケーションを取ることで、語彙力が広がりました。この様に、多様性に満ちた環境での生活は自分を成長させ、新たな視点を得ることができると思います。国際棟生活は、国際棟でしか味わうことができない経験がたくさんあるので、一緒に生活している人たちにとっても大切なものであるとわかりました。(アミン:マレーシア出身)

今年の留学生は性格の良い人たちばかりです。彼らは時間を節約し有効に活用しており、勉強熱心な人たちです。短期研修生のフランス人留学生が来た時は、英語がペラペラで感心しました。それだけでなく、基本的な日本語で一緒に話したりもしました。みんなで一緒に外で食べたこともいい思い出です。たとえ短くても、一緒に過ごす時間はとても楽しく貴重だと感じています。
(ラオ:ラオス出身)

私は5年生になってから春潮寮の国際棟に入寮しました。それまでは、家族以外と共同生活をした経験があまりなかったので、馴染めるかどうか不安でした。しかし、同じユニットの仲間がとても優しく接してくれて安心したことを今でも覚えています。留学生たちとは、皆でユニットに集まってアニメを見ながら食事をしたり、函館市内を観光したりして交流しています。また、フランスから短期研修生が来た際には、ピザパーティーを催して親睦を深めました。その中でも一番の思い出は、国際棟生の皆でジンギスカンパーティーをしたことです。長期留学生の母国の辛いカレーを食べたり、その後は海外のホラー映画を鑑賞したり、ポーカーやババ抜きなどのトランプをしたりしたことは今でもしっかり心に残っています。(宮原:日本出身)

何だか楽しそうですね。R6年1月には台湾から、2月にはベルギーから、4月にはフランスから短期研修生が来る予定です。長期留学生は4月からタイとカンボジアから来ます。また賑やかになりそうです。

写真1:七夕交流会

写真2:寮祭

写真3:テーブルマナー講習会

写真4:春潮寮スポーツ大会

写真5:国際棟生の皆さん

進路支援室から

『令和5年度の進路状況について』

進路支援室長　物質環境工学科　教授　清野　晃之

令和5年度の進路状況についてご報告致します。本科5年生は就職と進学の割合が約7:3で就職が多くなっております。ここのところ進学の割合が少し多くなっていましたが、以前の数字に戻ったように感じます。そんな中で情報コースは就職と進学の割合が逆転しておりました。次に道内企業への就職を見ると、各学科コースで数名の学生が内定となっていますが、公務員を含めて社会基盤工学科で一番多くなっています。今後は千歳に進出する半導体メーカー、それに伴い進出する関連企業により、道内の求人は大幅に増えることが予想され、道内への就職希望者も増えるのではないかと予想されます。専攻科2年生については、19名中15名が就職、4名が進学となっており、就職が多くなっています。就職先については本科と同じような企業に就職できています。

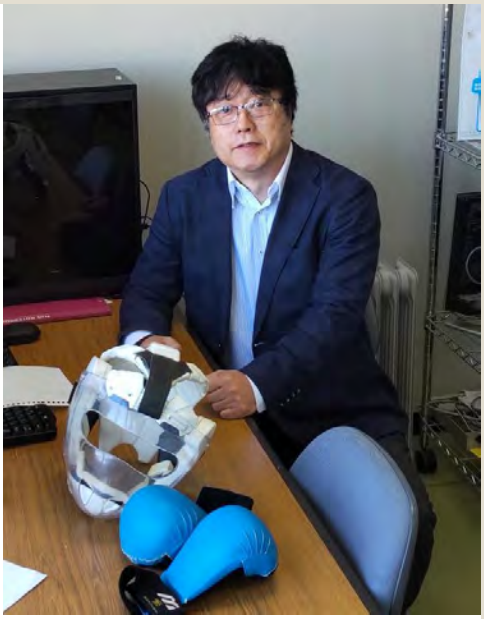
一方で、進学については長岡・豊橋の両技大、はこだて未来大、室蘭工大、専攻科への進学者が多く、北大や弘前大も毎年数名キープできています。その他、これまで編入していない大学への合格も出ており、場所などにこだわらない学生や私立大学への編入学も増えている傾向にあります。また、大学院への進学はこれまで進学実績のある大学が中心となっています。

コロナもようやく出口が見え始め、企業の人材不足も重なり、求人数はこれまで以上に多いように感じます。この傾向は今後数年続くことが予想されるため、4年生以下の学生の皆さんは有利に就職活動を進められると思います。今は低学年でのキャリア教育もあるため、早い段階から色々な企業情報を得ることができ、また、4年次ではインターンシップがあり、オンラインセミナーや対面での説明会も複数回実施されますので、逆にどこを受けようか迷ってしまうのではないかと思います。自分がどんな仕事をしたいのか?を念頭に置いて、それには就職で良いのか?それとも大学・専攻科への進学をした方が良いのか?考え、どちらかを選択した後で、具体的にどこの企業・大学を受けるのか?待遇面やどんな研究をしているのかなどフカボリしていくのが良いでしょう。

退職される先生方から一言

『遊暮働学であった函館高専に感謝』

生産システム工学科　教授　佐藤　恵一



28年間、函館高専にお世話になり、本年度で定年退職いたします。これまで、多くの教員、技術職員、事務職員の皆様には、ご迷惑をおかけ、そしてお世話になりました。お詫びするとともに、広い心で受け止めてくださった皆様に心からお礼申し上げます。特に、事務の方々の多くのフォローのおかげでここまでこられたのだと感謝しております。

私は、石川啄木生誕の地である岩手県玉山村で中学まで住んでいました。小学生の時に、鼓笛隊の小太鼓を担当し、函館で開催された石川啄木祭に招待され、函館市内を行進しました。中学の修学旅行も函館であり、以前から函館は好きな町であり、函館高専に奉職することが決まったときはとても嬉しく思いました。人生振り返ってみると不思議なもので、私が幼少のころ、一家が玉山村に入植した当初、電気、ガス、水道が無い生活をしましたが、このような環境で育った人間が、まさかITなど最先端技術を教える教師になるとは想像できませんでした（笑）。函館高専情報工学科教員に奉職当初の学生の印象は、情報工学科は当時、クラスの半数が女子の場合もあり、高専にしては女子が多いと思いました。それから母子家庭の学生が多く、成績上位者は就職し、大学編入する学生は、どちらかというと上位ではないことが印象に残っています。私も小4の時、父が亡くなり母子家庭で高専に入学しましたが、当時の函館高専の学生は、中学生のとき成績優秀なのに経済的理由から、自ら大学を諦めて高専に入学しているのではないかと思いました。

函館高専の28年間で記憶に残ること、苦労したことは何ですかとよく聞かれることがありますが、やはり空手道部かと思います。空手道部の顧問を約20年担当しました。また、昨年まで高体連函館地区空手道専門員として12年間、部員の引率、組み合わせ抽選、賞状印刷など大会運営を行ってきました。学生を引率して多くの大会に参加しました。私の研究活動も空手に関するテーマで行いました。私自身も空手の稽古をしており、ほぼ毎日学校と空手道場の往復で、部活に熱中する高校生のように過ごしてきました。札幌市南区において4人家族で自給自足的な生活をしている三栗祐己氏が提唱している遊暮働学（ゆうぼどうがく）という語がありますが、これは、遊びと暮らしと仕事と学びが一体化したライフスタイルのことをいいます。三栗氏の遊暮働学の域には達していませんが、辛く、苦しい時もありましたが、遊暮働学のように楽しく仕事をさせていただいた函館高専に心から感謝しています。そして、函館高専のこれからのますますの発展をお祈りいたします。

『退職をむかえて』

一般系　教授　高橋 眞規子

私が函館高専に着任したのは、2000年の4月でした。着任挨拶の始業式に気合を入れるために赤の上下のスーツを着ていったら、担任のクラスの学生に「ホテルの受付の人かと思った」と苦笑されたのも良い思い出です。あれからもう23年、あっというまに退職年度を迎えました。

函館高専ではいろいろな仕事を経験させていただきました。広報委員だった時、道内や青森各地の中学校訪問をさせていただきましたが、どこへ行っても高専へ進んだ卒業生の活躍をたいへん喜んでくれているのが伝わってきて、高専ブランドの人気の高さを実感ました。

また、寮務に携わっていたときは、寮生達の苦労や楽しさも一緒に実感できまし、寮祭では寸劇や筋肉自慢などバラエティ番組顔負けのユーモアのある企画の多彩さにいつも抱腹絶倒でした。そういえば、高専祭も女装コンテストやものまね大会などの審査員を任されたこともありましたが、笑いすぎて審査どころではなかった記憶があります。

コロナの蔓延で行事ができない時は残念でしたが、今年度から学校祭も復活しました。寮生会や学生会を中心とした学生の皆さんの益々の活躍を楽しみにしています。

学級担任も何度か経験させていただきましたが、入学時、高専での生活や勉強にとまどっていた学生たちが徐々に高専生活を楽しむコツをつかみ、専門科目の学習に習熟し、インターンシップ後にはすっかり社会人としてのマナーも身につけて、5年後にたくましくなって卒業してゆくのを見るたびに、彼らの成長を頼もしく感じ、私もまた励まされました。

また、海外提携校との交流も担当させていただき、マレーシアとシンガポールの提携校に学生を引率する機会もいただきました。研修前は英語もたどたどしく、心配だった学生達が、すぐにホストスクールの学生と仲良くなって帰国後も交流を続けているのをみて、学生たちの成長に驚いたものです。現在、本校では国際寮もでき、欧州、アジアなどの各国からの短期留学生と一緒に生活することも可能になりました。このように海外にでなくとも英語でコミュニケーションをとる機会も増えていますので、これからも英語教員の経験者として学生たちの応援をしてきたいと思います。

最後になりますが、23年間、私の函館高専での教育と経験をささえていただきました皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

函館高専地域連携協力会から

企業名：株式会社ワイズ
①設立年月日：平成2年11月29日
②代表者氏名：遠藤　史隆　（代表取締役社長）
③所在地：東京本社　東京都北区赤羽2-51-3 NS3ビル2F
　函館オフィス　北海道函館市戸倉町15-1 KOSENコモンズブース1
④企業紹介
　函館高専の皆さま、はじめまして!2023年より函館高専地域連携協力会に加入いたしました「株式会社ワイズ」と申します。本社を東京都北区に構える130名規模のIT企業です。システム開発・データサイエンス・AI開発を得意としております。
　函館オフィスは2023年1月に開設し現在は4名の社員が在籍しています。2023年9月より函館高専内KOSENコモンズ（食堂の2F）にオフィスを構えさせていただく運びとなりました。
　函館オフィスのメンバーには、函館高専OB、はこだて未来大学OB、福岡出身のメンバーが東京より移住してきております。責任者（今村）は東京オフィスより毎月函館に足を運んでおります。ぜひ、学生の皆さんにKOSENコモンズにお越しいただきたくイベント等を企画してまいりますので、楽しみにおまちくださいませ。

⑤函館とのご縁　～全国高専プログラミングコンテストを通じて～
　弊社は全国高専プロコンに協賛しており、そのご縁で函館高専に2017年に初めて伺いました。
　国内いくつかの高専とご縁があり、三重県の鳥羽商船高専では毎年開催される学内ハッカソンの審査企業として参加しております。社員には高専出身者が8名（函館・群馬・高知）おり、役員に登用された高専出身のメンバーもおります。高専生の得意どころが活かせる!をテーマに、キャリア形成に取り組んでいます。
　昨年は、はこだて未来大学生向けにインターンシップを開催し、高専出身者が講師として活躍しました。「函館をデータ活用で元気にする!」をテーマとし、函館市役所経済部・観光部の皆様の協力もあり実践的な取り組みが出来ました（みんな函館がもっと好きになったと思います!）。
　⑥異業種からのチャレンジを支援　～他学科、職業訓練校からのキャリア形成～
　昨今注目されているIT業界へチャレンジしたい方の雇用機会創出に取り組んでいます。情報系以外の出身者にも採用の門戸を開いています。中でも、職業訓練校出身のメンバーが30名ほどおり、異業種からIT業界へ転身を遂げています。女性メンバーが増えてきており、銀行員、ウェディングプランナー、医療事務、専門商社、栄養士 等、前職は様々です。各メンバーを見て思うのが、業界未経験からのゼロスタートではなく、今まで仕事で培ってきたビジネスコミュニケーション力、利用者に対するホスピタリティの精神が、IT業界でも遺憾なく発揮されているということです。
　弊社には様々な道を歩んできたメンバーがおりますので、リアルな声を届けられると思います。
　全国の学校や、職業訓練校、ポリテクセンターで講演してきております。採用ありきでのお話でなく、出会った方が後悔のないキャリアの選択ができるようお手伝いしていきたいと強く思っています。（進学？就職？大手？中小？地元？東京？それとも海外？？などなど、なんでもお話ししたいですね）
　⑦これからやりたいこと
　社員旅行で函館に来たいです。函館の魅力を多くの方に伝えていきたいと思っています。
　どこかで関わりをいただけた際は、ぜひよろしくお願いいたします。
　お読みいただき、ありがとうございました。

本校公式ソーシャルメディアのご紹介

本校では4つの公式ソーシャルメディアを運用しています。
これらの公式ソーシャルメディアは、在校生とその保護者、及び本校への入学を志望者とその保護者が本校の理解を深める機会を提供することを目的としたもので、本校の様々な活動や魅力等を発信します！

本校ソーシャルメディアサービス運営方針はこちら

<Facebook>

・函館工業高等専門学校（函館高専）

<Instagram>

・函館工業高等専門学校（函館高専）

・函館高専図書館【公式】

<YouTube>

・函館工業高等専門学校公式アカウント

学校だより　第217号　令和６年３月発行
発行　函館工業高等専門学校広報委員会
〒042-8501　函館市戸倉町14番1号
TEL：0138-59-6420
FAX：0138-59-6330